

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議および高齢者の防犯教育推進の ための研修会の効果の検討

—地域ぐるみの特殊詐欺対策推進のために—

大久保 智生¹ ・ 石岡 良子² ・ 堀江 良英³
垣見 真博³ ・ 岩田 健嗣³ ・ 山地 秀一³
木村 光宏³ ・ 山口 真由³
三好 弘美³ ・ 森田 浩充³

<要 約>

本研究の目的は、地域ぐるみの特殊詐欺対策推進のために、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議と高齢者の防犯教育推進のための研修会の効果について検討することであった。特殊詐欺撲滅ネットワーク会議に参加した46名と高齢者の防犯教育推進のための研修会に参加した34名を対象としてアンケート調査を行った。会議参加者と研修会参加者はともに全体の評価と対策の実感が高いことが明らかとなった。全体の評価と対策の実感との関連では、会議参加者、研修会参加者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と対策の実感がつながっていることが明らかとなった。

キーワード：特殊詐欺対策、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議、防犯教育推進のための研修会

問題と目的

現在、全国的に特殊詐欺の被害の規模は約450億円以上と推定されており、高齢者を対象とした特殊詐欺対策は喫緊の課題となっている。特殊詐欺の被害により、老後の蓄えを一瞬にして失ってしまうこともあるため、効果的な特殊詐欺対策の推進が求められている。

特殊詐欺とは、有名なオレオレ詐欺だけでなく、架空請求詐欺、還付金等詐欺、融資保証金詐欺、金融商品等取引名目詐欺、ギャンブル必勝情報提供名目詐欺なども含めた総称である。先行研究では、高齢者のリスク認知(山崎・仲・

石崎・サトウ, 2014)や認知機能の特性(永岑・原・信原, 2009)、被害後の相談行動を抑制する罪の意識(岩田・大川, 2015)、詐欺犯罪に対する脆弱性(渡部・澁谷, 2014)など個人の内的な要因に焦点が当てられてきたが、地域ぐるみで対策を行っていくことの必要性も指摘されている。

特殊詐欺は、香川県においても社会問題になっており、平成26年には被害額が5億円を超えるなど、喫緊の課題となっている。こうした中、特殊詐欺に対する社会全体の抵抗力を強化するために、2015年7月に香川県警察が中心と

1 香川大学

2 慶應義塾大学

3 香川県警察

なり、金融機関や宅配業者なども含めた様々な関係機関・団体等と連携し、「官・民・学」一体となった香川県特殊詐欺撲滅ネットワーク会議が立ち上がった。ネットワーク会議には、香川県において特殊詐欺防止に関わる関係機関や団体の代表者などが参加した。香川大学もネットワーク会議に参加し、香川県警察と共同で高齢者の意識調査を行ってきた（大久保・石岡・時岡、印刷中）。その結果、一般の高齢者は詐欺情報への関心は高く、知識もあるが、詐欺に対する防犯教室への参加経験や相談窓口の知識は高くないことが明らかとなった。さらに、詐欺だとわかっていても払ってしまうかもしれない、誰にも相談できないと思う高齢者もおり、その一方で、半数の高齢者は友人・知人が詐欺にあったら助けてあげたいと思っていることが明らかとなった。これらの調査結果を踏まえると、防犯教室や相談窓口の広報が重要であり、自分自身が詐欺かもしれないと思った後の相談行動を促し、他人が詐欺にあったかもしれない場合には援助行動を促進することが重要であるため、ネットワーク会議では地域ぐるみの対策の必要性について報告を行った。また、ネットワーク会議では、警察による現状説明や関係機関や団体からの防止の事例報告なども行われ、関係機関や団体がネットワークとしてつながり、情報共有することの必要性について確認された。

さらに、香川県特殊詐欺撲滅ネットワーク会議では分科会として、高齢者の防犯教育推進のための研修会を2016年3月に開催した。研修会には、香川県において特殊詐欺に関する防犯教育に関わっている関係機関や団体が参加した。これまで高齢者向けの防犯教育は様々な関係機関や団体が独自に行ってきたことから、研修会では共通認識を持ち、情報共有を図り、ネットワークを作っていくことを目的とした。具体的には、研修会では、お互いの取り組みを知り、連携して対策を行っていくためにも、様々な関係機関や団体がそれぞれの取り組みを紹介し、高齢者の防犯に関わる者がお互いの様々な取り組みを知り、皆で高齢者の防犯対策を考え

ていくグループワークを行った。さらに、前述のように、これまで高齢者向けの防犯教育は様々な関係機関や団体が独自に行ってきたことから、高齢者の特殊詐欺に焦点を当てた防犯教育のワークブックを香川県警察、消費生活センター、社会福祉協議会、婦人団体連絡協議会、法テラスなどと連携して作成し、配布した。また、相談窓口に関する情報提供が必要であると考えられたため、ワークブックとは別にチラシも作成し、配布した。

こうしたネットワーク会議や研修会の効果について検討するため、アンケート調査を行い、参加者がどのように評価したのかについて尋ねることとした。さらに、香川県警察のこれまでの取り組みや大久保・石岡・時岡（印刷中）の調査結果などから、有効な特殊詐欺対策として、①孤独な高齢者の地域とのつながり作り、②高齢者への防犯教室の実施、③離れている家族との交流の促進、④金融機関での声かけや確認、⑤詐欺に関する情報や知識の獲得、⑥高齢者に関わっている団体のネットワーク作りと情報の共有を取り上げ、これらについて、対策を実感できたのかを尋ねることとした。時間の関係からネットワーク会議や研修会の前後の2時点に調査を行うのではなく、ネットワーク会議と研修会の後にのみ調査を行うこととした。

以上を踏まえ、本研究では、地域ぐるみの特殊詐欺対策推進のために、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議と高齢者の防犯教育推進のための研修会の効果について検討することを目的とする。具体的には、まず、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議参加者の全体の評価と対策の実感について検討し、全体の評価が対策の実感と関連するのかについて検討する。次に、高齢者の防犯教育推進のための研修会参加者の全体の評価と対策の実感について検討し、全体の評価が対策の実感と関連するのかについて検討する。

方法

調査対象と手続き

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議に参加した46名（男性37名、女性8名、不明1名）に対して

アンケート調査を行った。調査協力者の年齢は平均が49.91歳、標準偏差が11.59であった。

高齢者の防犯教育推進のための研修会に参加した34名（男性6名、女性26名、不明2名）に対してアンケート調査を行った。調査協力者の年齢は平均が54.63歳、標準偏差が19.20であった。

調査内容

①全体の評価：講習会全体や研修会全体の評価については、大久保・時岡・有馬・松浦・高橋（2012）の調査を参考にした大久保・時岡・岡田・尾崎・藤沢・有吉・西村・松下（2014）の調査と同様に、「良いと思った」、「勉強になった」、「関心が高まった」、「改善にいかせると思った」の4項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」（1点）から「非常にあてはまる」（5点）までの5件法である。

②対策の実感：会議に参加して得た対策の実感や研修会に参加して得た対策の実感については、具体的な対策のポイントに対応した形で、「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」、「高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」、「離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った」、「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」の6項目で測定した。回答形式は「全くあ

てはまらない」（1点）から「非常にあてはまる」（5点）までの5件法である。

結果と考察

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議における全体の評価と対策の実感

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議に対してどのような評価をし、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議に参加してどのような実感をえたのかを検討するため、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議全体の評価と特殊詐欺撲滅ネットワーク会議に参加して得た対策の実感の平均値と標準偏差を算出した。その結果をTable 1とTable 2に示す。

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議全体の評価では、「良いと思った」で平均が4.478 (SD = .752)、 「勉強になった」で平均が4.391 (SD = .829)、 「関心が高まった」で平均が4.326 (SD = .790)、 「改善にいかせると思った」で平均が4.304 (SD = .726)であった。したがって、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議は非常に高い評価が得られるものであることが明らかとなった。

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議に参加して得た実感では、「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」で平均が4.609 (SD = .714)、 「高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」で平均が4.435 (SD = .655)、 「離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った」で平均が4.087 (SD = 1.029)、 「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」で平均が4.522

Table 1 ネットワーク会議全体の評価

	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる	平均値 (標準偏差)
良いと思った	1	0	1	18	26	4.478
	2.2	0	3.4	39.1	56.5	(.752)
勉強になった	1	1	1	19	24	4.391
	2.2	2.2	2.2	41.3	52.2	(.829)
関心が高まった	1	0	3	21	21	4.326
	2.2	0	6.5	45.7	45.7	(.790)
改善にいかせると思った	1	0	1	26	18	4.304
	2.2	0	2.2	56.5	39.1	(.726)

下段はパーセント

Table 2 ネットワーク会議に参加して得た対策の実感

	全く あてはまらない	あてはまらない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
孤独な高齢者が地域とつながれる ような対策が重要だと思った	1 2.2	0 0	0 0	14 30.4	31 67.4	4.609 (.714)
高齢者への防犯教室のような対策 が重要だと思った	0 0	1 2.2	1 2.2	21 45.7	23 50.0	4.435 (.655)
離れている家族との交流を促進す るような対策が重要だと思った	2 4.3	2 4.3	4 8.7	20 43.5	18 39.1	4.087 (1.029)
金融機関での声かけや確認のよう な対策が重要だと思った	1 2.2	0 0	2 4.3	14 30.4	29 63.0	4.522 (.781)
詐欺に関する情報や知識が得られ るような対策が重要だと思った	1 2.2	0 0	1 2.2	17 37.0	27 58.7	4.500 (.753)
高齢者に関わっている団体のネッ トワークを作り、情報を共有する ような対策が重要だと思った	0 0	1 2.2	2 4.3	19 41.3	24 52.2	4.435 (.688)

下段はパーセント

(SD = .781)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」で平均が4.500 (SD = .753)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」で平均が4.435 (SD = .688)であった。したがって、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議への参加は対策が実感できるものであることが明らかとなった。

以上の結果から、非常に高い評価と対策の実感が得られるネットワーク会議であったといえる。特殊詐欺撲滅ネットワーク会議は官民学が連携したものであるが、様々な関係機関や団体によって評価されていることから、こうした地域ぐるみの対策が求められていたと考えられる。

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議における全体の評価と対策の実感との関連

特殊詐欺撲滅ネットワーク会議において全体の評価が対策の実感とつながっているのかを検討するため、会議参加者の全体の評価と対策の実感のピアソンの相関係数を算出した。その結果をTable 3に示す。

その結果、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議参加者において、「良いと思った」は「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」($r = .645, p < .001$)、「高齢者へ

の防犯教室のような対策が重要だと思った」($r = .471, p < .01$)、「離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った」($r = .720, p < .001$)、「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」($r = .738, p < .001$)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」($r = .785, p < .001$)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」($r = .620, p < .001$)と有意な正の関連が認められた。「勉強になった」は「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」($r = .564, p < .001$)、「高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」($r = .375, p < .05$)、「離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った」($r = .766, p < .001$)、「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」($r = .638, p < .001$)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」($r = .819, p < .001$)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」($r = .669, p < .001$)と有意な正の関連が認められた。「関心が高まった」は「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」($r = .585, p < .001$)、「高

Table 3 ネットワーク会議全体の評価と対策の実感の関連

	良いと思った	勉強になった	関心が高まった	改善にいかせると思った
孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った	.645 ***	.564 ***	.585 ***	.706 ***
高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った	.471 **	.375 *	.536 ***	.463 **
離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った	.720 ***	.766 ***	.675 ***	.707 ***
金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った	.738 ***	.638 ***	.654 ***	.615 ***
詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った	.785 ***	.819 ***	.803 ***	.854 ***
高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った	.620 ***	.669 ***	.592 ***	.663 ***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」(r = .536, p < .01)、「離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った」(r = .675, p < .001)、「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」(r = .654, p < .001)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」(r = .803, p < .001)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」(r = .592, p < .001)と有意な正の関連が認められた。「改善にいかせると思った」は「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」(r = .706, p < .001)、「高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」(r = .463, p < .01)、「離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った」(r = .707, p < .001)、「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」(r = .615, p < .001)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」(r = .854, p < .001)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」(r = .663, p < .001)と有意な正の関連が認められた。したがって、ネットワーク会議の全体の評価と対策の実感の関連があることが明らかとなった。

以上の結果から、ネットワーク会議の全体の評価と対策の実感はつながっていることが示された。それぞれの対策のポイントを実感するこ

とが全体の評価と関連することから、ネットワーク会議で有効だと考えられた対策のポイントは特殊詐欺対策への意識向上につながるということが示唆された。

高齢者の防犯教育推進のための研修会における全体の評価と対策の実感

高齢者の防犯教育推進のための研修会に対してどのような評価をし、高齢者の防犯教育推進のための研修会に参加してどのような実感を得たのかを検討するため、高齢者の防犯教育推進のための研修会全体の評価と高齢者の防犯教育推進のための研修会に参加して得た対策の実感の平均値と標準偏差を算出した。その結果をTable 4とTable 5に示す。

高齢者の防犯教育推進のための研修会全体の評価では、「良いと思った」で平均が4.382 (SD = .493)、「勉強になった」で平均が4.353 (SD = .485)、「関心が高まった」で平均が4.353 (SD = .544)、「改善にいかせると思った」で平均が4.235 (SD = .554)であった。したがって、高齢者の防犯教育推進のための研修会は非常に高い評価が得られるものであることが明らかとなった。

高齢者の防犯教育推進のための研修会に参加して得た実感では、「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」で平均が4.559 (SD = .504)、「高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」で平均が4.382 (SD = .739)、「離れている家族との交流を促

Table 4 研修会全体の評価

	全く あてはまらない	あてはまらない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
良いと思った	0	0	0	21	13	4.382
	0	0	0	61.8	38.2	(.493)
勉強になった	0	0	0	22	12	4.353
	0	0	0	64.7	35.3	(.485)
関心が高まった	0	0	1	20	13	4.353
	0	0	2.9	58.8	38.2	(.544)
改善にいかせると思った	0	0	2	22	10	4.235
	0	0	5.9	64.7	29.4	(.554)

下段はパーセント

Table 5 研修会に参加して得た対策の実感

	全く あてはまらない	あてはまらない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った	0	0	0	15	19	4.559
	0	0	0	44.1	55.9	(.504)
高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った	0	0	5	11	18	4.382
	0	0	14.7	32.4	52.9	(.739)
離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った	0	0	8	13	13	4.147
	0	0	23.5	38.2	38.2	(.783)
金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った	0	0	3	14	17	4.412
	0	0	8.8	41.2	50.0	(.657)
詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った	0	0	0	21	13	4.382
	0	0	0	61.8	38.2	(.493)
高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った	0	0	2	13	19	4.500
	0	0	5.9	38.2	55.9	(.615)

下段はパーセント

進するような対策が重要だと思った」で平均が4.147 (SD = .783)、「金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った」で平均が4.412 (SD = .657)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」で平均が4.382 (SD = .493)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」で平均が4.500 (SD = .615)であった。したがって、高齢者の防犯教育推進のための研修会への参加は対策が実感できるものであることが明らかとなった。

以上の結果から、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議と同様に非常に高い評価と対策の実感が得られる研修会であったといえる。高齢者の防犯

教育推進のための研修会は、実際に高齢者への防犯教育に携わる者が対象であったが、他の関係機関や団体の取り組みを知ることができ、さらに様々な立場の人たちと対策について話し合う機会が設けられた。したがって、こうした今回の研修の内容は全体の評価や対策の実感を得られるものであったと考えられる。

高齢者の防犯教育推進のための研修会における全体の評価と対策の実感との関連

高齢者の防犯教育推進のための研修会において全体の評価が対策の実感とつながっているのかを検討するため、研修会参加者の全体の評価と対策の実感のピアソンの相関係数を算出した。その結果をTable 6に示す。

Table 6 研修会全体の評価と対策の実感の関連

	良いと思った	勉強になった	関心が高まった	改善にいかせると思った
孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った	.455 **	.160	.254	.600 ***
高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った	.335	.119	.182	.440 **
離れている家族との交流を促進するような対策が重要だと思った	.164	.258	.301	.267
金融機関での声かけや確認のような対策が重要だと思った	.154	.101	.259	.309
詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った	.502 **	.432 *	.272	.437 *
高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った	.449 **	.406 *	.543 **	.534 *

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

高齢者の防犯教育推進のための研修会参加者において、「良いと思った」は「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」(r = .455, p < .01)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」(r = .502, p < .01)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」(r = .449, p < .01)と有意な正の関連が認められた。「勉強になった」は「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」(r = .432, p < .05)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」(r = .406, p < .05)と有意な正の関連が認められた。「関心が高まった」は「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」(r = .543, p < .01)と有意な正の関連が認められた。「改善にいかせると思った」は「孤独な高齢者が地域とつながれるような対策が重要だと思った」(r = .600, p < .001)、「高齢者への防犯教室のような対策が重要だと思った」(r = .440, p < .01)、「詐欺に関する情報や知識が得られるような対策が重要だと思った」(r = .437, p < .05)、「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」(r = .534, p < .05)と有意な正の関連が認められた。したがって、研修会の全体の評価と対策の実感に関連がある

ことが明らかとなった。

以上の結果から、研修会の全体の評価と対策の実感はつながっていることが示された。ただし、ネットワーク会議よりは全体の評価と対策の実感の有意な関連は少なかった。研修会の目的はネットワークを作り、情報共有を進めることであったことから、特に全体の評価と「高齢者に関わっている団体のネットワークを作り、情報を共有するような対策が重要だと思った」の間に有意な関連が認められたことを勧案すると研修会の目的が達成されたと考えられる。

まとめと今後の課題

本研究では地域ぐるみの効果的な特殊詐欺対策推進のために、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議と高齢者の防犯教育推進のための研修会の効果について検討した。その結果、特殊詐欺撲滅ネットワーク会議参加者、高齢者の防犯教育推進のための研修会参加者はともに全体の評価と対策の実感が高いことが明らかとなった。全体の評価と対策の実感との関連では、会議参加者、研修会参加者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と対策の実感につながっていることが明らかとなった。

これらの結果から、ネットワーク会議や研修会は評価も高く、有効だと考えられる対策のポイントを実感できるものであったといえる。ネットワーク会議の参加者は関係機関や団体で

あったが、研修会の参加者は地域の防犯教育の担い手であった。こうした異なる参加者であっても、全体の評価が高く、対策の実感が得られるということは、ネットワーク会議や研修会は特殊詐欺対策推進の起爆剤になる可能性が示唆された。また、ネットワーク会議と研修会における全体の評価と対策の実感との関連の仕方からも、意図した効果があったと考えられた。

今後の課題としては、3つ挙げられる。1点目は調査対象である。今回、ネットワーク会議に参加した関係者と研修会に参加した関係者を対象としたが、これらの対象者は特殊詐欺対策への関心の高い者が多かったと考えられる。地域には、特殊詐欺対策にあまり関心のない関係者も多数存在することから、今後、関心のない関係者においても同様の効果が認められるのかを検討する必要があるだろう。2点目は、調査の実施の仕方である。本来ならば、ネットワーク会議や研修会の前後に調査を実施し、その変化について検討すべきであるが、今回は時間の関係からネットワーク会議や研修会の後だけの調査となってしまった。したがって、事前と事後の調査を行い、実際にネットワーク会議や研修会の効果があるのかを検討する必要があるだろう。3点目は、今後の展開の仕方である。今回の研修会では、高齢者が被害者となる特殊詐欺に焦点を当てたが、高齢者が加害者になる万引きなどにも焦点を当て(大久保・時岡・岡田, 2013)、被害者にも加害者にならないための防犯教育を行っていく必要があるだろう。また、防犯教育の場に参加しない高齢者に対しては、高齢者の見守り活動(瀧澤・赤平・太田・渡邊, 2014)なども含め、どのように地域ぐるみで特殊詐欺を防止していくのかを考える必要があるだろう。

引用文献

永岑光恵・原壘・信原幸弘 2009 振り込め詐欺への神経科学からのアプローチ 社会技術研究論文集, 6, 177-186.
岩田美奈子・大川一郎 2015 高齢者の詐欺被害における相談行動抑制の心理的要因: 相談しない傾

向の検証 日本心理学会第79回大会, 1PM-019.
大久保智生・石岡良子・時岡晴美 印刷中 地域と連携した高齢者向け防犯教育プログラムの開発: 高齢者が被害者及び加害者にならないための心理教育 2014年度日本興亜福祉財団ジェロントロジー研究助成研究報告書
大久保智生・時岡晴美・有馬道久・松浦隆夫・高橋護 2012 万引き防止啓発の動画制作プロジェクト参画による青少年の意識変化について(その2): 動画の視聴者の評価と参画した大学生と中学生の意識調査から 香川大学教育実践総合研究, 25, 57-68.
大久保智生・時岡晴美・岡田涼 2013 万引き防止対策に関する調査と社会的実践: 社会で取り組む万引き防止 ナカニシヤ出版
大久保智生・時岡晴美・岡田涼・尾崎祐士・藤沢隆行・有吉徳洋・西村雅之・松下昌明 2014 店舗向け万引き防止対策講習会および万引き防止対策動画の効果の検討: 店舗での効果的な万引き対策推進のために 香川大学教育学部研究報告, 142, 45-52.
瀧澤透・赤平光定・太田孝・渡邊直樹 2014 青森県における最近の「見守り活動」について: 多彩な経緯による見守り活動とその特徴 八戸学院大学紀要, 49, 47-52.
渡部諭・澁谷泰秀 2014 高齢者の詐欺犯罪脆弱性に対する taxometric 分析 秋田県立大学総合科学研究彙報, 15, 1-9.
山崎優子・仲真紀子・石崎千景・サトウタツヤ 2014 高齢者の自己や他者に対する信頼感が事件被害のリスク認知に及ぼす影響 立命館人間科学研究, 29, 3-17.